

S	写真I-1 クリエイティブ	科目コード： 66001
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。	
開講日程・ 開講地・定員	写真I-1(クリエイティブ)a 開催日程：2019年6月22日(土)～2019年6月23日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：30 写真I-1(クリエイティブ)b 開催日程：2019年7月6日(土)～2019年7月7日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30 写真I-1(クリエイティブ)c 開催日程：2019年7月20日(土)～2019年7月21日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：30 写真I-1(クリエイティブ)d 開催日程：2019年8月17日(土)～2019年8月18日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30	
担当者	河田憲政(京都)、森政俊(東京)、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真における表現とは何かを学びます。頭の中に浮かんだイメージをどのように写真にするのか、制作のインスピレーションをどのように具現化するのかなど、写真の創造力を身につけるための基礎的な考え方、モノの捉え方を実践します。指定されたモチーフ(紙・粘土)を被写体として自己の考えを写真化していきます。環境や状況をどのように写真制作につないでいくのかを実習します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 発想力
3. 表現力

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。2～3時間程度予習してください。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。3～4時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』 『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

単に目の前の世界を撮影するのではなく、頭の中に浮かんだイメージを写真によってヴィジュアル化させていくための方法を考えていきます。材料として与えられる紙や粘土で作成したモチーフを用いて、撮影場所の選定やカメラアングルなどを駆使し、理想のヴィジュアルに仕上げていきます。授業内で5～10点ほどのA4プリントを仕上げます。

授業計画

●1日目

1～2講時 写真表現についての考え方を写真家の作品から学ぶ
3～4講時 モチーフによる撮影実習、セレクト、プリント
5講時 講評

●2日目

1～3講時 立体モチーフによる構想と制作、撮影実習、セレクト、プリント
4～5講時 講評

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※開講場所（教室）はWeb申し込みの方はairUで、郵送申し込みの方は「スクリーニング申込結果通知」で確認してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）
2. デジタルカメラ撮影機材一式（デジタル一眼カメラ、フード、標準ズームレンズ）
他のレンズも必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。
3. メモリーカード（各自のカメラにあったカード）
カメラ機種にもよりますが4GB以上を推奨します。
※使用可能なメモリーカードの種類
CFカード、SDカード(32GB以下のSDHC)、メモリースティックDuo
4. バッテリー及び充電器
デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式
5. 予備バッテリー（デジタル一眼カメラ用バッテリー）
使用中のバッテリーが切れた場合に使いますので持参してください。
6. カメラの取扱説明書
持参されるデジタル一眼カメラの取扱説明書

7. 筆記用具

8. 保存用ファイル

A4クリアファイルなど（プリント作品を持ち帰るため）

9. 付箋

12.5×75mm程度のサイズのもの。10枚+α。色、素材など自由。
キーワードが書き込めること。事前課題の講評の際に使用します。

10. エプロン等

紙粘土を使用するため衣服が汚れないように

11. ノートパソコン

この授業では、撮影した画像データをカメラのモニターで確認する作業が多くなります。ノートパソコンをお持ちで、個人で使用される方は持参してください。特別なソフトなどは必要ありません。

【諸注意】

授業で使用するプリンターはSDXCタイプのSDカードには対応していませんので、必ず32GB以下のSDHCタイプのSDカードまたはCFカード、メモリースティックを用意して下さい。XQDカードにも対応していません。

また、RAWデータはプリントできませんので、必ずJPEGデータで記録してください。

●教材

- ・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。
- ・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

- ・モチーフ材料費 1,100円
- ・プリント出力費 A4サイズ1枚につき190円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真 I - 2 デジタル基礎	科目コード： 66002
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。	
開講日程・ 開講地・定員	<p>写真I-2(デジタル基礎)a 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：25</p> <p>写真I-2(デジタル基礎)b 開催日程：2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：25</p> <p>写真I-2(デジタル基礎)c 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：25</p> <p>写真I-2(デジタル基礎)d 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：25</p>	
担当者	三島淳（京都）、稲元史郎（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

デジタルカメラについての基礎知識を理解し、デジタル画像の基本的な扱い方についてを学びます。ホワイトバランスや記録画質等のカメラの設定や撮影する際のデジタルカメラの取り扱い、撮影後の画像の確認、画像データの保存方法までを理解を深めていきます。授業時間内での撮影実習と合評を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 授業内容を理解した上で行った作品制作の成果

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。3～4時間程度予習してください。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。3～4時間程度復習しましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』 デジタル写真の基礎知識 (pp.32~41)、 補助教材『デジタル写真』 (airUシラバス「写真演習 I-1」に掲載)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

デジタルカメラやデジタルデータの基礎を理解するための講座です。講義と連動して、実際に自身のカメラを使用して撮影を行います。撮影項目は細かく分かれており、露出やホワイトバランスといった各設定を変更しながら撮影し、実際にどのような変化が画像に起きるのかを体験します。授業内で数点のA4サイズのプリントを行います。

授業計画

●1日目

- 1~2講時 デジタルカメラの仕組み、記録画質、ホワイトバランス等について解説、講義
- 3~4講時 大学近辺での撮影実習
- 5講時 撮影データの確認、講義用パソコンへ取り込み (大学のパソコン)

●2日目

- 1講時 画像データの整理、保存方法について講義
- 2講時 撮影実習の画像データのプリント
- 3講時 プリントの確認
- 4~5講時 合評とまとめ

※2日目は撮影は行いませんが、撮影画像をカメラで再生して確認します。

※天候や授業の進行状況によりスケジュールを変更する場合があります。

開講場所 (教室) は、Web申し込みの方はairUで、郵送申し込みの方は「スクーリング申込結果通知」で確認してください。

補助教材『デジタル写真』も事前に参照しておいてください (参考資料としてairUシラバスに掲載)。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 (事前課題の項目参照)
2. デジタルカメラ 撮影機材一式
デジタル一眼カメラ、フード、レリーズ (リモコン可)、標準ズームレンズもしくは標準レンズ
※他のレンズも必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。
3. メモリーカード
各自のカメラで使用可能なカード
カメラ機種にもよりますが4GB以上を推奨します。

【諸注意】

授業で使用するプリンターはSDXCタイプのSDカード、XQDカードには対応していませんので、必ず32GB以下のSDHCタイプのSDカードまたはCFカード、メモリースティックを用意してください。また、

RAWデータはプリントできませんので、必ずJPEGデータで記録してください。

4. バッテリー及び充電器（デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式）
5. 予備バッテリー（デジタル一眼カメラ用バッテリー）
使用中のバッテリーが切れた場合に使いますので持参してください。
6. カメラの取扱説明書（持参されるデジタル一眼カメラの取扱説明書）
7. 三脚
8. 筆記用具
9. 保存用ファイル
A4クリアファイルなど（プリント作品を持ち帰るため）
10. 補助教材「デジタル写真1」
出力して持参してください。

●教材

- ・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。
- ・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

■プリント出力費

A4サイズ1枚につき190円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真 I - 3 写真原理 / ピンホール	科目コード： 66003
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。	
開講日程・ 開講地・定員	写真I-3(写真原理/ピンホール)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：50 写真I-3(写真原理/ピンホール)b 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：50	
担当者	徳永隆之（京都）、山本渉（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真がなぜ写るのか。光と映像の原理に遡り、体感的に理解します。写真の世界への入り口の講座であるとともに、写真について深く考えるきっかけを与えます。デジタルカメラによるピンホールカメラを制作し、撮影と作品講評までを行います。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 成果物のクオリティとプレゼンテーション力
3. 授業への参加姿勢

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。2～3時間の予習をしましょう。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。3～4時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』ピンホール写真を撮る（pp.8～15）
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

単純な構造であるピンホールカメラは、写真が何故写るのか理解しやすいカメラです。カメラの製作と撮影を通して写真への理解を深めます。また、孔のサイズが異なる二種のピンホールを使って撮影し、レンズで得られる映像とは違う表現方法を学びます。撮影に関する基礎知識の習得と平行し、写真に対する観念を広げることに重点を置いた制作をおこないます。

授業計画

●1日目

1～2講時 ピンホール現象についての講義及び作例鑑賞

3講時 事前課題発表

4講時 デジタル・ピンホールカメラ制作実習

5講時 大学周辺にて実験的な撮影

●2日目

1～2講時 撮影実習（撮影場所は自由）

3講時 画像データ整理

4～5講時 作品講評とディスカッション

※授業の進行状況や受講人数により変更する場合があります。

※状況に応じて予告なしに内容を一部変更する場合があります。

【諸注意】

受講前にレンズを取り外した状態でシャッターが切れることを確認してください。シャッターが切れない場合は、切れるように設定変更をおこなってください。変更方法が分からない場合は、カメラメーカーや、サービスセンターなどに問い合わせ設定変更をおこなってください。

ピンホールでの撮影は撮影素子のホコリが目立ちます。カメラ販売店あるいはカメラメーカーのサービスセンター等にて、事前にセンサークリーニングを行うことをお勧めします。

暑い中、屋外での撮影実習を行う場合があります。暑さ対策、服装及び履物を工夫してください。

集合場所（教室）は、Web申し込みの方はairUシラバスで、郵送申し込みの方は「スクーリング申込結果通知」で確認してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（airUシラバス「事前課題」の項目参照）

2. デジタル一眼カメラ

充電器、メモリーカード等も準備のこと。

3. 予備バッテリー

4. 三脚

各自の使用するカメラを装着し、シャッターを切ってもブレや振動の起こらない堅牢なもの。

5. レリーズ（リモートコントローラー）

各自の使用するカメラに適合したもの。

6. カメラの取扱説明書

7. ボディーキャップ 2個

ボディーキャップにはドリルで孔をあけます。レンズキャップではありません。

各自のカメラのボディに適合したキャップを持参すること。

(孔の大小2種類のピンホールを使って撮影しますので、ボディーキャップは2個持参してください)

8. 油性ペン (黒)

9. はさみ

10. ノートパソコン

この授業では、撮影した画像データをカメラのモニターで確認する作業が多くなります。

大学で用意するパソコンはデータのコピー用のみとなります。画像のセレクトには使用できません。

個人での使用を希望される方はノートパソコンを持参してください。特別な画像ソフトなどは必要ありません。

●教材

・補助教材「デジタル写真1~3」は、airUシラバスの「写真演習 I -1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・資料編1 (カメラ使用説明、カメラ用語解説) と資料編2 (デジタル写真の基礎知識) についても同様です。

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

- ・撮影地までの交通費 約1,000円

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

- ・ピンホールカメラ製作に伴う材料費 (NDフィルター・真鍮箔等) 約500円

※金額は変更になる場合があります。詳細は授業の中でお知らせします。

注意事項

■事前にカメラの設定変更が必要な場合があります。詳細は授業計画の下部「諸注意」の項目を参照してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真II-1 撮影基礎1	科目コード： 66004
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。	
開講日程・ 開講地・定員	<p>写真II-1(撮影基礎1)a 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30</p> <p>写真II-1(撮影基礎1)b 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p> <p>写真II-1(撮影基礎1)c 開催日程：2019年6月1日（土）～ 2019年6月2日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30</p> <p>写真II-1(撮影基礎1)d 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p>	
担当者	徳永隆之、大河原光(京都)、篠原俊之（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真撮影に必要な要素を講義と実践から学びます。写真撮影時におけるルールとマナー（肖像権、著作権など）をはじめ、制作の意識、被写体との関係、各自の使用するカメラの使い方と写真撮影の基礎技術（一眼カメラの構造、カメラ操作の基本、相反則、絞りとシャッターの関係、被写界深度、露出補正、レンズ効果等）を修得します。更に写真の目的、制作の意義も理解していきます。撮影実習と合評を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 授業内容を理解した上で行った作品制作の成果

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。5～6時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。4～5時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』カメラの基礎 (pp.16~31) 『写真の変容と拡張』第1章 (pp.6~13)、第3章 (pp.34~42)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

露出、絞り、シャッタースピードなど、撮影するために必要な最も基礎的な知識やルールについて学びます。

絞りやシャッタースピードの設定について、予め指定された数値で撮影に臨みますが、その際に、各機能の効果がよく写し出される条件（場所や構図）を探し出すことが重要なポイントとなってきます。授業内で課題に従い、20点ほどの作例を撮影します。

授業計画

●1日目

- 1~2講時 写真撮影のルールとマナー、一眼カメラの構造、レンズについての解説、カメラ操作の基本、絞りとシャッターの関係、相反則、被写界深度についての講義
- 3~4講時 キャンパス付近にて撮影実習
- 5講時 合評に向けての準備

●2日目

- 1講時 初日課題作品および事前課題作品の合評
- 2~3講時 各自で場所を設定し、撮影実習（京都は岡崎周辺を予定）
- 4講時 2日目課題作品の合評
- 5講時 作品制作についての講義

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※暑い中、屋外での撮影実習を行う場合があります。暑さ対策、服装及び履き物を工夫してください。

開講場所（教室）は、Web申し込みの方はairUで、郵送申し込みの方は「スクーリング申込結果通知」で確認してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）
2. デジタルカメラ
撮影機材一式（デジタル一眼カメラ、フード、レリーズ（リモコン可）、標準ズームレンズ）
※他のレンズも必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。
3. メモリーカード（各自のカメラで使用可能なカード 2枚以上）
カメラ機種にもよりますが4GB以上を推奨します。
4. バッテリー及び充電器（デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式）
5. 予備バッテリー（デジタル一眼カメラ用バッテリー）

使用中のバッテリーが切れた場合に使いますので持参してください。

6. 三脚

使用方法を学びますので必ず持参してください。

※貸し出しはありません。

7. カメラの取扱説明書

持参されるデジタル一眼カメラの取扱説明書

8. テキスト『写真・技法と表現』（必要な部分のコピーでも構いません。）

9. 筆記用具

10. ノートパソコン

この授業では、撮影した画像データをカメラのモニターで確認する作業が多くなります。大学で用意するパソコンはデータのコピー用のみとなります。画像のセレクトには使用できません。個人での使用を希望される方はノートパソコンを持参してください。特別な画像ソフトなどは必要ありません。

11. 雨具

雨天でも屋外で撮影をすることがあります。雨具の準備をしておいてください。

●教材

・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

●撮影地までの交通費 1,000～2,000円

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅱ－2 撮影基礎2	科目コード： 66005
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※撮影に不安のある学生は「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅱ－2(撮影基礎2)a 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：27 写真Ⅱ－2(撮影基礎2)b 開催日程：2019年10月19日（土）～ 2019年10月20日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：27 写真Ⅱ－2(撮影基礎2)c 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：27 写真Ⅱ－2(撮影基礎2)d 開催日程：2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：27	
担当者	黒崎創（京都）、筑紫拓也（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

大型カメラ（4×5ビューカメラ）を使用して、カメラの原理、構造の理解と基礎を学び、撮影の基礎技術の再認識と実践を行います。フィルム撮影の体験を通じて、被写体の発見と撮影方法を学習します。大型4×5カメラの意義、構造、取り扱い方、シャインプルーフの法則の解説、アオリについて、露出計の使用法、カットホルダーの取り扱い、フィルムの増減感について等の講義の後、撮影実習を行います。デジタルカメラによるテスト撮影と、リバーサルフィルムを使用するの撮影実習を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 事前課題への取り組み
4. 被写体の選択
5. スクーリングにおける講評時の作品のクオリティ
（現像されたフィルムは成績評価の対象となりません）

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。6～7時間程度

の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。6～7時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』第1章 (pp.6～13)、第3章 (pp.34～42) 『写真・技法と表現』4×5カメラ (pp.42～55)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

すべてがマニュアル撮影である大型カメラを使用してピント合わせ、構図決定、被写界深度、露出決定などのカメラ原理を体験・理解します。またフィルムを使用することで、1回ごとの撮影の重要性と緊張感を体験・理解します。一人3カット6枚の4×5リバーサルフィルムでの撮影を行います。

授業計画

●1日目

1～2講時 4×5ビューカメラ、大判レンズ、露出計の構造と操作について解説、講義

3～4講時 デジタルカメラ/シートフィルムを使用した撮影実習/1被写体に対しカットホルダーA・B面を段階露光

5講時 シャインプルーフの法則を理解し、「アオリ」を学ぶ

●2日目

1～4講時 アオリ操作を踏まえた撮影実習/2被写体に対しカットホルダーA・B面を段階露光撮影、PCへの取り込み

5講時 2日間の撮影と課題の講評、質疑応答

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※野外での実習となりますので、上着・防寒具などで体温調節できるよう各自で工夫してください。

(キャンパス内での撮影を予定しています。)

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 (事前課題の項目参照)

2. デジタルカメラ・撮影機材一式

(デジタル一眼カメラ、標準域を含むレンズ、他に各自が必要と思われるもの)

3. メモリーカード2枚以上。

各自のカメラにあったカードで、終日の撮影に対応できるものと、予備としてもう1枚を持参してください。

4. バッテリー デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式

5. カメラの取扱説明書

6. 露出計

お持ちの方は持参してください（『コースガイド2019』p.4参照）

撮影の際、光の強さを計り、シャッタースピードと絞りを設定するために使用します。

7. 筆記用具

8. テキスト『写真・技法と表現』

9. 防寒具

野外での撮影になりますので、上着などで体温調節できるように各自で工夫してください。

●教材

・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

年度途中で価格変更があれば下記料金も変更となります。

価格変更については、授業初日に教員より説明します。

●4×5C/Rフィルム料金（6枚） 3,000円（1枚=500円）

※撮影ミスがあった場合はフィルムの追加使用分を上記料金に加算します。

※金額は前年度実績です。メーカーの価格改定により変更する可能性があります。

●現像料金（4×5C/Rフィルム1枚） 約380円

※各自の使用枚数による。

※金額は前年度実績です。メーカーの価格改定により変更する可能性があります。

注意事項

■撮影実習は個人ではなく複数名で4×5ビューカメラを使用して行います。4×5ビューカメラは精密なカメラです。操作方法を誤ると使用できなくなる場合がありますので、教員の指示に従って丁寧に取り扱ってください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅱ－3 ライティング基礎	科目コード： 66006
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※撮影に不安のある学生は「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅱ－3(ライティング基礎)a 開催日程：2019年11月30日（土）～ 2019年12月1日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：20 写真Ⅱ－3(ライティング基礎)b 開催日程：2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：20 写真Ⅱ－3(ライティング基礎)c 開催日程：2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20 写真Ⅱ－3(ライティング基礎)d 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20 写真Ⅱ－3(ライティング基礎)e 開催日程：2020年1月11日（土）～ 2020年1月12日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20 写真Ⅱ－3(ライティング基礎)f 開催日程：2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：20	
担当者	黒崎創（京都）、田中仁、竹下修平（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真撮影をする際に重要な、光とその構成を理解していきます。
 ライティングの基礎となるタングステンライトの種類とその光質、ライトポジションの確認、スタジオライティングにおける露出計の使い方、照明比、タングステン光、デーライト光による違い、大型ストロボによるライティングなどを講義後、撮影実習と合評を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. ライティング技術の精度

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。6～7時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。6～7時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』第3章 (pp.34～47) 『写真・技法と表現』スタジオライティング (pp.58～79)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

光の質や位置による被写体の見え方の違いを学び、実習することでライティングの基礎技術を習得します。また通常の撮影の際に光を意識して見るための基礎を習得します。ライトポジション、照明比など、後日参考になる基礎画像を自身の撮影により得ます。

授業計画

●1日目

1～2講時 ライトの種類、ライトポジションと効果、照明比について解説、講義

3～5講時 タングステンライトを用いたライティング撮影実習

●2日目

1講時 大型ストロボを用いたライティングについて解説、講義

2～4講時 大型ストロボを用いた総合ライティング撮影実習

5講時 合評および質疑応答

※京都は高原キャンパスで開催します。高原キャンパスのスタジオは土足厳禁ですので、備え付けのスリッパに履き替えることになります。

気になる方はご自身でスリッパまたは上履きをご持参ください。外苑キャンパスでは土足のまま行います。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. デジタルカメラ 撮影機材一式

デジタル一眼カメラ、フード、レリーズ（リモコン可）、標準ズームレンズ（広角レンズのみは不可）

※他のレンズも必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。

3. メモリーカード2枚

（各自のカメラに合ったカードで終日の撮影に対応できるものと予備としてもう1枚）

カメラ機種にもよりますが4GB以上を推奨します。

※データは操作ミスなどにより消失してしまう場合がありますので、事前にご自宅のパソコンなどに保存しておいて下さい。

4. バッテリー及び充電器

デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式

5. 予備バッテリー（デジタル一眼カメラ用バッテリー）

使用中のバッテリーが切れた場合に使いますので持参してください。

6. 露出計

お持ちの方は持参してください（『コースガイド2019』p.4参照）

撮影の際、光の強さを計り、シャッタースピードと絞りを設定するために使用します。

7. テキスト『写真・技法と表現』

8. 筆記用具

9. スリッパまたは上履き（必要な方のみ）

※京都のみ

※授業で三脚を使用しますが、大学が用意します。

※一部のカメラは大型ストロボに適合しないものがあります。そのようなカメラをお持ちの方には大学で用意したカメラを使用していただきます。できるだけ外部ストロボに持続可能なカメラやアダプターをお持ちください。

●教材

・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。

テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

・撮影モチーフ使用料金 約1,500円

※金額は変更になる場合があります。

※撮影モチーフは、使用料金を東京、京都の各受講者数で割って算出しています。

注意事項

■テキスト『写真・技法と表現』pp.58～79「スタジオライティング」をよく読んでください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅲ－3 写真知見 科目コード： 66009
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅰ－2」および「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅲ－3(写真知見)a 開催日程：2020年1月11日（土）～ 2020年1月12日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30 写真Ⅲ－3(写真知見)b 開催日程：2020年2月22日（土）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30
担当者	中村史子（京都）、佐々木成明（東京）、勝又公仁彦*

科目概要と到達目標

現在の写真の状況はなぜこうであるのか。その歴史的経緯を写真史とそれを彩る作家たちによって紐解き、演習による実践的な理解を通じて身体化し、作品解釈および作品制作に活かします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み。
2. 成果物のクオリティとプレゼンテーション力
3. 授業への参加姿勢

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。3～4時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。5～6時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『世界の写真家101』多木浩二、大島洋 編集（新書館） 『日本の写真家101』飯沢耕太郎 編集（新書館） 『写真を“読む”視点』小林美香（青弓社） 『写真芸術論』（※『学習ガイド2019』pp. 75～76）「1-2.教材の販売」参照）

課題

写真史とそこに登場する作家とその作品を知ることにより、なぜその写真家と作品が評価されるのかが理解できるようになります。また、歴史的な蓄積の上に現代の作品が成立していることを認識することで、自身の興味や関心領域に応じた作るべき作品の道筋が見え易くなります。さらにワークショップでの実践を通して、作品の構造を身体的に理解します。

授業計画

●1日目

1～5講時 講義及び作例鑑賞、事前課題作品プレゼンと講評、サブレクチャーなど

●2日目

1～2講時 写真史などについての講義及び作例鑑賞

3～5講時 ディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーション、質疑応答、まとめ

※授業の進行状況や受講人数により変更する場合があります。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. 筆記用具

3. 学生証（京都のみ。大学図書館への入館、資料の貸出時に必要です。）

●教材

・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅲ－4 スナップ	科目コード： 66031
配当年次	2年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅰ－2」および「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅲ－4(スナップ)a 開催日程：2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30 写真Ⅲ－4(スナップ)b 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30 写真Ⅲ－4(スナップ)c 開催日程：2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30	
担当者	竹下修平（東京）、黒崎創（京都）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

本科目は撮影テーマの発見・追求、写真の編集・構成を理解し修得することを目標としています。京都と東京にて特色のある撮影場所を選定し、地域に密着した撮影実習を行います。講義とミーティングを行い、各自がテーマを設定、撮影、制作します。撮影することに特化した授業で、数多くの写真を撮影することから実践的に写真を学習します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 事前課題への取り組み
4. 被写体の選択と表現力
5. 編集力
6. 作品のクオリティ

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

予め撮影場所（授業計画の項目を参照）について調べ、地図を用意しておいてください。受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。2～3時間程度の予習が必要です。受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。4～5時間程度の復習をしましょう。課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』 『写真の変容と拡張』
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

ストリートをフィールドに、小型カメラの基本であるスナップショットを撮る視線と技法を身につけるとともに、写真に重要な「量を撮る」行為を経験し、身体化することを目指します。

授業計画

京都の撮影場所：八坂、祇園、五条坂周辺（両日）

東京の撮影場所：銀座（1日目）、上野（2日目）

●1日目（大学集合）

1～2講時 事前課題の講評（学内）

3～5講時 撮影実習（京都）現地解散、（東京）大学解散

●2日目（現地集合）

1～2講時 撮影実習（撮影地）

3～5講時 作品編集、講評（学内）

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※屋外での撮影実習を行う予定です。服装及び履き物等工夫してください。

※2日目の集合場所については、1日目のスクーリング内で案内いたします。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. デジタルカメラ 撮影機材一式（コンパクトデジカメは不可）

デジタル一眼カメラ、レンズ（各自が必要と思われるもの）

※スナップショットの作品づくりにはコンパクトカメラが適していますが、スクーリングでは撮影条件を統一するためデジタル一眼カメラのみを使用してください。

3. メモリーカード 2枚以上。

各自のカメラにあったカードで、終日の撮影に対応できるものと、予備としてもう1枚を持参してください。

4. バッテリー

デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式

5. カメラの取扱説明書

6. 撮影資料

撮影地域・場所の地図、文献、画像など

7. 筆記用具

8. ノートパソコン

※画像調整をする方は持参してください。

9. 雨具

雨天でも屋外で撮影をすることがありますので、雨具の準備をしてください。

●教材

- ・補助教材「デジタル写真1~3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。
- ・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

- ・撮影地までの交通費 約2,000円

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅲ－5 フォト・コラージュ	科目コード： 66032
配当年次	2年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅰ－2」および「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅲ－5(フォト・コラージュ)a 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30 写真Ⅲ－5(フォト・コラージュ)b 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30	
担当者	徳永好恵（京都）、今井紀彰（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

20世紀初頭に近代絵画の技法として生まれたコラージュについて学びます。表現世界を構築するための撮影を行い、“創る写真表現”について体験・研究することを目的とします。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 発想力
4. 構成力
5. 合評時のプレゼンテーション

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。5～6時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。5～6時間程度の復習をしましょう。

テキスト科目の写真演習Ⅱ-1第1課題フォト・コラージュに取り組む際には本スクーリングで学んだことを十分に活かしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『冒険王・横尾忠則』（展覧会図録） 『はるかな旅・岡上淑子作品集』河出書房新社

課題

写真を使ったコラージュについて学びます。イメージの発するメッセージをいかに捉え、再構成し、新たなメッセージと共に一つの画面としていかに成立させるかについて、レクチャーと実作を通して学びます。授業中に240×350mmサイズのフォト・コラージュ作品を1点制作します。

授業計画

●1日目

1～2講時 コラージュの歴史と魅力の紹介

3講時 課題説明

4講時 プランニング

5講時 プラン発表

●2日目

1講時 フォト・コラージュ作品制作 撮影・画像出力

2～3講時 フォト・コラージュ作品制作 画面構成

4講時 フォト・コラージュ作品制作 合評

5講時 まとめ・質疑応答

※授業の進行状況により変更することがあります。

※京都開講は大学の図書館を利用する場合がありますので、学生証を携行してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. デジタルカメラ 撮影機材一式（デジタル一眼カメラ、標準ズームレンズ）

※他のレンズや三脚も必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。

3. メモリーカード

各自のカメラで使用可能なカード、事前課題の写真データを入れてもなお十分な空き容量がある事を確認して持参

※使用可能なメモリーカードの種類

CFカード、SDカード(32GB以下のSDHC)、メモリースティックDuo

【諸注意】

授業で使用するプリンターはSDXCタイプのSDカード、XQDカードには対応していませんので、必ず32GB以下のSDHCタイプのSDカードまたはCFカード、メモリースティックを用意してください。また、RAWデータはプリントできませんので、必ずJPEGデータで記録してください。

4. バッテリー及び充電器

デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式、予備バッテリー

5. カメラの取り扱い説明書

持参されるデジタル一眼カメラの取扱説明書

6. 写真、雑誌、印刷物等・コラージュに使用したいご自身で撮影した写真（データでも可）
雑誌は2冊以上、コラージュの貼りこみ用素材として使用するため、切り抜くなど解体が可能な物。写真が多く掲載されている異なるジャンルの雑誌が好ましい。
7. 繊細作業用カッター
小型カッターナイフでも可。替刃。
8. ハサミ、スティック糊・仮止め用糊もしくは仮止め用テープ *水糊は不可。
9. 30～45cmの定規・鉛筆・消しゴム
10. 作品持ち帰り用ケース（B4サイズのボードが入るもの）
11. 学生証（京都のみ。大学図書館への入館、資料の貸出時に必要です。）

※既存の写真データを多く用いる方は、画像整理のためにノートパソコンを持参されることをおすすめします。

●教材

- ・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。
- ・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

- コラージュ用台紙・コピー用紙・諸材料 550円程度
※モノクロコピーに関しては諸材料に含まれます。

●大学のプリンターで出力した場合のプリント出力費

<光沢紙>A4サイズ1枚につき190円/2Lサイズ1枚につき100円/Lサイズ1枚につき50円
<マット紙>A4サイズ1枚につき110円

- カラーコピー出力費 1枚あたり40円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■持参するカメラの使い方を理解した上で受講してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真Ⅳ－1 デジタルフォト	科目コード： 66034
配当年次	2年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅰ－2」および「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅳ－1(デジタルフォト)a 開催日程：2019年8月31日(土)～2019年9月1日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：25 写真Ⅳ－1(デジタルフォト)b 開催日程：2019年9月22日(日)～2019年9月23日(月) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：25 写真Ⅳ－1(デジタルフォト)c 開催日程：2019年10月26日(土)～2019年10月27日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：25 写真Ⅳ－1(デジタルフォト)d 開催日程：2019年11月9日(土)～2019年11月10日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：25	
担当者	諏訪光二(東京)、三島淳(京都)、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

デジタルカメラの撮影時設定の基礎知識、撮影データの取り扱い方法をより深めるための授業を行います。RAW形式で撮影を行い、撮影時の注意点や撮影後のRAWデータの取込み、画像調整、プリント出力、RAW形式から他の画像形式への変換(RAW現像)、画像データの保存を行い、一連の作業の中でRAW形式での撮影から画像データの取り扱いと出力までの行程を理解していきます。パソコンでのアプリケーションソフトはAdobe PhotoshopCCを使用します。プリント出力はインクジェットプリンターを使用し、A4プリントを制作し、合評を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 授業内容を理解した上で行った作品制作の成果

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。6～7時間程度の予習が必要です。受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。7～8時間程度

の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

補助教材『デジタル写真』も事前に参照しておいてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』デジタル写真の基礎知識 (pp.32~41)、補助教材「デジタル写真」(airUシラバス「写真演習 I-1」に掲載)
参考文献・URL	アドビシステムズ http://www.adobe.com/jp/ Adobe Photoshop https://www.adobe.com/jp/products/photoshop.html 『新編 写真・技法と研究』

課題

デジタルカメラを使った制作では、フィルムのような暗室作業が必要でない分、撮影時のカメラ設定や撮影後のパソコンを使った画像調整が重要となってきます。本科目では、実際にRAWデータで撮影することから始まり、撮影された画像をパソコン上で調整していくまでのプロセスを、体系的に学んでいきます。

授業内で5~10点ほどのA4プリントを仕上げます。

授業計画

●1日目

1~2講時 デジタル一眼レフカメラの撮影時設定、記録画質、RAW形式等について解説、講義

3~4講時 大学近辺での撮影実習

5講時 撮影データをパソコンへ取り込み保存、確認

●2日目

1講時 Adobe PhotoshopCCを用いた撮影データの整理と操作の学習

2~4講時 現像ソフトを用いたプリント、画像調整、保存

5講時 合評

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※各自のパソコンにてアプリケーションソフト (Adobe Photoshop CC) などを使用します。

難しくはありませんが、パソコンの基本操作知識が必要となります。

パソコン操作が初めての方は、事前に基礎的な操作について学習しておいてください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 (事前課題の項目参照)

2. デジタル一眼カメラ

付属品一式もあわせて持参してください。(レンズ、メモリーカード、バッテリー、充電器等)

3. 記録メディア

4～8GB程度以上の容量のUSBフラッシュメモリ1個。もしくは外付ハードディスク（SSD可）1個。
各自の制作状況により必要な容量が異なりますが、撮影画像や画像調整作業で制作した画像データをプリントしたり、保存し持ち帰るために使用します。大学で用意するMacに接続するため、Macで読み書きできるフォーマットのものがが必要です（exFAT推奨）。

4. 学内LANアカウント

授業では使用しない場合もありますが、パソコンのネット接続が必要になった場合に必要となります。（『学習ガイド2019』pp.91～93参照）

5. 筆記用具

6. 保存用ファイル

A4クリアファイルなど

7. ノートパソコン

※RAWデータを快適に扱えるパソコンである必要があります。小型・軽量パソコンなど、非力なパソコンでは授業に支障が出る可能性があります。

※8. にリストされている必要ソフトウェアがインストールされている必要があります。前日までにインストールを完了してください。

※HDDやSSDなど、主ドライブの空き容量を数十GBは確保しておいてください。空き容量が少ないとソフトが正常に機能しません。

8. 必要なソフトウェア

・ Adobe Photoshop CC、Adobe Bridge CC、Adobe Lightroom Classic CC

※いずれもAdobe社のフォトグラフィプランに含まれています。

※受講前に自宅にてアップデートを行い最新版にしておいてください。

※体験版でもかまいませんが、受講時に使用期限切れにならないように注意してください。

※OSのバージョンが古いと起動できない場合があります。前日までにソフトを起動して動作することを確認してください。

・ ウィルス対策ソフト

※体験版でもかまいませんが、前日までにインストールを完了しておいてください。

※フリーウェア（無料ソフト）のウィルス対策ソフトはソフトにより安全レベルに差があるため推奨されません。

9. 三脚

●教材

・ 補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。

・ 資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

・ プリント出力費1枚につき190円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

■補助教材『デジタル写真』は、airUシラバス「写真 I-2」の「科目の概要」の最下部「教材を確認」から閲覧できます。

S	<h2 style="margin: 0;">写真Ⅳ－2</h2> <h3 style="margin: 0;">視る</h3>	科目コード： 66035
配当年次	2年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。	
開講日程・ 開講地・定員	<p>写真Ⅳ－2(視る)a 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：関西■、受講料： ¥16,000、定員：30</p> <p>写真Ⅳ－2(視る)b 開催日程：2019年11月30日（土）～ 2019年12月1日（日） 開催地：関西■、受講料： ¥16,000、定員：30</p> <p>写真Ⅳ－2(視る)c 開催日程：2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p> <p>写真Ⅳ－2(視る)d 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p>	
担当者	堀井ヒロツグ、大河原光（関西）、森政俊（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真の名作と現代作品を数多く鑑賞し、写真の本質を知ること为目标にした鑑賞授業を行います。視覚芸術である写真にとって、視ることは撮影や制作することに相当する重要な行為です。同じ写真でも印刷やモニター上で見るだけではなく、オリジナル作品を視ることは写真を深く理解するために必要です。

また、展覧会の企画・構成を意識して鑑賞することから視る装置としての場の分類と傾向も理解していきます。最終日にディスカッションを行い意見交換を行います。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 受講態度
3. 鑑賞展覧会の理解度
4. ディスカッションでの発表力

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。3～4時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。6～7時間程度の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』 『写真・技法と表現』美術館&ギャラリー案内 (pp. 186~195)
参考文献・URL	『写真芸術論』 (※『学習ガイド2019』pp. 75~76) 「1-2.教材の販売」参照 京都国立近代美術館 http://www.momak.go.jp/ 国立国際美術館 http://www.nmao.go.jp/ 東京国立近代美術館 http://www.momat.go.jp/ 森美術館 http://www.mori.art.museum/jp/index.html

課題

美術館やギャラリーに展示されている作品を鑑賞します。オリジナルのプリントや実際の空間に展示されている作品を見ることで、プリントのクオリティや額装などのプレゼンテーションの方法、空間内における配置の仕方などを学びます。レポートとディスカッションにより、講師と受講生同士の意見交換を図ります。

授業計画

【 東京 】

●1日目

10:00

ニコンプラザ新宿 [ナビダイヤル: 0570-02-8060/Tel: 03-3344-0565]

東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー28F、ニコンプラザ新宿内

epSITE (エプソンイメージングギャラリー エプサイト) レクチャー、見学

新宿界限ギャラリー見学

18:00頃 現地解散

●2日目

10:00

東京国立近代美術館集合 (予定) [ハローダイヤル: 03-5777-8600]

東京都千代田区北の丸公園3-1

午 後

美術館見学

森美術館 見学 (予定)

16:30

外苑キャンパスにてディスカッション

18:00頃 解散

ニコンサロンHP

<http://www.nikon-image.com/activity/salon/>

※授業スケジュールは展覧会の状況により変更となる可能性があります。「注意事項」を参照してください。

【関西】

●1日目

10:00

京都国立近代美術館 集合 [テレフォンサービス: 075-761-9900]

京都市左京区岡崎円勝寺町26-1

『ギルバートコレクション』を見学 (学芸員のレクチャー)

午 後

京都市内および近郊のギャラリーなどを見学

18:00頃 現地解散

●2日目

10:00

国立国際美術館 集合

大阪市北区中之島4-22-55 [Tel: 06-6447-4680]

大阪市内周辺のギャラリーを見学

15:00

大阪サテライトキャンパスにてディスカッション

18:00頃 現地解散

京都国立近代美術館HP

<http://www.momak.go.jp/>

国立国際美術館HP

<http://www.nmao.go.jp/>

※授業スケジュールは展覧会の状況により変更となる可能性があります。「注意事項」を参照してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 (事前課題の項目参照)

2. 筆記用具 (鉛筆及びシャープペンシル)

美術館内では筆記用具の使用に制限があります。鉛筆のみ使用可能なところもあります。

3. 写真用白手袋・マスク

※京都国立近代美術館所蔵の『ギルバートコレクション』見学の場合のみ

4. 首都圏の地図 ※東京参加者のみ

新宿・銀座・渋谷などが記載の地図

東京に不慣れな方は必ず持参してください。はぐれてしまった場合があると便利です。

スマートフォンなどの地図でも構いません。

5. 学生証（美術館等の入館料が割引になる場合があります）

6. 防寒具

※全日程において移動が多くなりますので、上着などで対応調節できるように各自工夫し、歩きやすい履物、服装で受講してください。

●諸経費

【東京・関西】共通

当日、以下の費用をご用意ください。

- ・移動交通費 2,000～3,000円
- ・入場料・入館料 例年2,000～3,000円

※美術館等で展覧会の図録、写真集を購入する方は別途ご用意ください。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

■見学先については授業の直前に見直し、開催している展覧会の中で科目として相応しいものを見学していただきます。そのため事前にお知らせできないこともありますのでご了承ください。いずれにしても移動が多くなりますので、荷物は予めコインロッカー等にあずけるなどして最小限にし、できるだけ軽装で出席してください。

S	写真Ⅳ－3 ポートフォリオ	科目コード： 66036
配当年次	2年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	無 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅰ－2」および「写真Ⅱ－1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真Ⅳ－3(ポートフォリオ)a 開催日程：2019年11月2日(土)～2019年11月3日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：30 写真Ⅳ－3(ポートフォリオ)b 開催日程：2019年11月9日(土)～2019年11月10日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30 写真Ⅳ－3(ポートフォリオ)c 開催日程：2019年12月7日(土)～2019年12月8日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30 写真Ⅳ－3(ポートフォリオ)d 開催日程：2019年12月14日(土)～2019年12月15日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：30	
担当者	鈴木崇(京都)、山本渉(東京)、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真作品を実際の展示や出版物以外の方法でプレゼンテーションするために活用する作品ポートフォリオの制作方法を学び、そのノウハウを活かして今後の作家活動での様々なプレゼンテーションで役立つ実際のポートフォリオの足がかりにします。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
 2. 授業の理解度
 3. 事前課題の取り組み
 4. 授業内容を理解した上で行う実習
 5. 合評の際のプレゼンテーション
- 実習で仕上げた成果物と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストやインターネットなどでポートフォリオについての予習を行ってください。
 受講で学んだことを十分に活かし、今後の自身のポートフォリオ制作に役立ててください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』第4部 第3章

課題

自身の作品をプレゼンテーションするためのポートフォリオ制作を行います。
活動している作家のポートフォリオの実例を紹介しながら、ポートフォリオがどのように活用されているのかの実際を学んでもらいます。
その上で、持参した作品またはそれに準ずる写真イメージを使ってポートフォリオ制作を行ってもらいます。
自身が制作する実際の作品を、ポートフォリオという別の形式でどのようにプレゼンテーションすることができるのかを実習を通して学ぶ機会となります。

授業計画

●1日目

- 1講時 ポートフォリオの概要と実際を説明
- 2講時 ポートフォリオの作り方についての講義
- 3～5講時 ポートフォリオ制作実習

●2日目

- 1～3講時 ポートフォリオ制作実習
 - 4～5講時 制作したポートフォリオを使っての合同プレゼンテーション
- ※授業の進行状況により変更する場合があります。

授業で使用するポートフォリオファイル、写真作品、プリント用紙などの準備をしてください。必要であれば実習中にプリントもしてもらいますので、作品のデータをパソコンに入れて持参してください。また撮影もする可能性がありますので、カメラも持参してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 ※事前課題の項目を参照
2. デジタルカメラ 撮影機材一式（デジタル一眼カメラ、標準ズームレンズ）
※他のレンズや三脚も必要と思われる場合は持参し使用しても構いません。
3. ポートフォリオファイル ※事前課題の項目を参照
4. 持参するファイルに合うサイズの写真プリント用紙（写真イメージをプリントする為のもの、光沢、半光沢、マットいずれのものでも構いません）と普通紙（台紙として使う為のもの）
大学ではプリンターEpson10VAを用意します。
5. ノートパソコン
この授業は画像データと文字データを使ってポートフォリオのページ構成をする作業が含まれています。ノートパソコンにPhotoshop、Illustrator、Lightroom、InDesignのいずれかをインストールしてご準備ください。もしくは手作業での作成をしていただきます。

6. 記録メディア

4～8GB程度の容量のUSBフラッシュメモリ1個

7. 両面テープ

8. ハサミ

9. カッター

10. 30～45cmの定規

11. メモリーカード

各自のカメラで使用可能なカード、事前課題の写真データを入れてもなお十分な空き容量がある事を確認して持参してください。

※使用可能なメモリーカードの種類

CFカード、SDカード(32GB以下のSDHC)、メモリースティックDuo

【諸注意】

授業で使用するプリンターはSDXCタイプのSDカード、XQDカードには対応していませんので、必ず32GB以下のSDHCタイプのSDカードまたはCFカード、メモリースティックを用意してください。また、RAWデータはプリントできませんので、必ずJPEGデータで記録してください。

●諸経費

・授業内に大学でプリントアウトする場合は、プリントアウトにかかる費用を指定口座から引き落とします。

※基本はインク代のみですが、忘れたり、不足になって大学の用紙を使用した方は用紙とインク代を引き落とします。

※金額は授業内にお知らせします。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真V-2 プレゼンテーション	科目コード： 66041
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真I-2」および「写真Ⅱ-1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真V-2(プレゼンテーション)a 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：20 写真V-2(プレゼンテーション)b 開催日程：2019年6月1日（土）～ 2019年6月2日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20 写真V-2(プレゼンテーション)c 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：20 写真V-2(プレゼンテーション)d 開催日程：2019年8月24日（土）～ 2019年8月25日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20	
担当者	橋本大和（京都）、柿島貴志（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

写真作品の額装、保存、展示などの理論と実践を学び、現代的な写真発表のシステムとプレゼンテーションを理解していきます。写真家の展覧会や発表形式を学び、展覧会のノウハウと社会に向けての発信をも習得していきます。

各自のプリント作品を、マッピング、フレーミング等の実習をしながら、美術館レベルの写真の展示・保存・発表方法について実践的に学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 事前課題の取り組み
4. 授業内容を理解した上で行った成果物
5. 合評の際のプレゼンテーション

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。3～4時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。6～7時間程度の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』 『写真・技法と表現』プリントの整理・保存・展示 (pp.168～185)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

写真を実際の空間でどう展示するかについて学びます。美術館やギャラリーでの多くの実例を紹介した上で、写真の展示方法として基本的な表現方法であるマツティングに挑戦します。与えられた材料を使用し、画像にふさわしい窓や余白のサイズを考え、専用のカッターを使って、制作を進めていきます。自分の作品をどう見せるか、見せたいかについて考える機会ともなります。授業内で2点ほどのブックマットを仕上げます。

授業計画

●1日目

- 1講時 写真を取り巻く環境 概論と現状
- 2講時 写真の材質特性、保存と管理について 概論
- 3～5講時 マツティング作品のセレクト、ブックマツティング実習

●2日目

- 1講時 写真展開催への流れ～プレゼンテーションの方法
- 2講時 展覧会の実際・スライドレクチャー
- 3講時 展示演習 作品のまとめ方と発表方法について
- 4講時 展示演習 展示壁面図の作成
- 5講時 合評

※授業の進行状況により変更する場合があります。

- ・ 作品を持ち帰るための袋は大学で用意します。
- ・ 授業で使用するプリント（事前課題）の内容を理解し、準備してください。
カメラ持参の必要はありません。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題 ※事前課題」の項目を参照
2. プラスティック定規
持参する写真より長いもの
3. 電卓
携帯電話に搭載の電卓でも可

4. 消しゴム
プラスチック製のもの
5. シャープペンシル
6. ハサミ
7. カッターナイフ
8. 写真用白手袋
プリントや台紙を扱う際使用します
9. テキスト 『写真・技法と表現』

● 諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

- ・ マットニング材料費 5,000円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真V-3 ワークショップ・ゼミナール	科目コード： 66042
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真I-2」および「写真Ⅱ-1」の受講後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	写真V-3(ワークショップ・ゼミナール)a 開催日程：2019年10月12日(土)～2019年10月13日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30 写真V-3(ワークショップ・ゼミナール)b 開催日程：2019年10月19日(土)～2019年10月20日(日) 開催地：京都、受講料：¥13,000、定員：30 写真V-3(ワークショップ・ゼミナール)c 開催日程：2019年11月16日(土)～2019年11月17日(日) 開催地：東京■、受講料：¥16,000、定員：30	
担当者	橋口讓二(京都)、金村修(東京)、港千尋(東京・予定)、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

第一線で活躍する写真家、写真作家を迎えての講義と実習を行います。
作家それぞれのスタイルや、その作家独自の制作テーマ、考え方に直接触れる事により、実践的に学習していきます。作家との対面という極めて貴重な時間の中で、その作品を理解して自己の制作への参考とします。作品講評とディスカッションに参加して、密度の高いワークショップを体験します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 事前課題への取り組み
4. 授業内容を理解した上で行った作品制作の成果

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。
また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。3～4時間程度の予習が必要です。
受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。5～6時間程度の復習をしましょう。
課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	金村修オフィシャルホームページ http://www.kanemura-osamu.com/

課題

【a 金村修ワークショップ（東京）】

講師の作品を理解し、撮影実習とディスカッションを通じて写真を深く理解すると共に、自己の資質を理解し、以降の作品展開に大きな指針を得ます。

授業内で2L～A4程度のプリント5～20枚程度を制作します。

【b 橋口譲二ワークショップ（京都）】

講師の作品を理解し、作品やプリントを観ることや、自分への、また他の受講生への講評を聞き、対話を重ねます。それによって自己の立ち位置が明確になり、以降の作品制作の大きな指針となります。

授業内でA4サイズのプリント3～10枚程度を制作します。

【c 港千尋ワークショップ（東京）】

講師の作品を理解し、撮影実習とディスカッションを通じて写真を深く理解すると共に、自己の資質を理解し、以降の作品展開に大きな指針を得ます。

授業内で2L～A4程度のプリント5～20枚程度を制作します。

授業計画

【a/b/c日程共通】

●1日目

1～2講時 教員によるレクチャーなど

3～5講時 撮影実習

現地解散

●2日目

1～2講時 大学に集合、教室などでプリント作業、撮影実習

3～5講時 講評、質疑応答

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

※屋外での撮影実習を予定しています。服装および履物を工夫してください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. デジタルカメラ（撮影機材一式）

デジタル一眼カメラ、レンズ（各自が必要と思われるもの） ※初日から持参してください。

3. メモリーカード

各自のカメラにあったカードで、終日の撮影に対応できるものと、予備としてもう1枚を持参してく

ださい。

【諸注意】

授業で使用するプリンターはSDXCタイプのSDカード、XQDカードには対応していませんので、必ず32GB以下のSDHCタイプのSDカードまたはCFカード、メモリースティックを用意してください。また、RAWデータはプリントできませんので、必ずJPEGデータで記録してください。

4. バッテリー

デジタル一眼カメラ用バッテリー、充電器一式

5. カメラの取扱説明書（カメラの操作に不安のある方のみ）

6. 撮影資料撮影地域・場所の地図、文献、画像など（スマートフォンの地図でも可）

a・c日程：東京23区

b日程：京都市内

7. 筆記用具

8. ノートパソコン

画像調整をしてプリントをする方は持参。EpsonプリンターEP-10VAのプリンタドライバーソフトをダウンロードしておいてください。（インストールは大学でプリンターに接続して行います。）

9. 写真用白手袋

● 諸経費

当日、以下の費用をご用意ください。

■ 撮影地までの交通費約500～1,500円

後日、以下の教材費を指定の口座から引き落とします。

■ プリント出力費（大学のプリンターを使用の方） A4サイズ1枚につき190円

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■ 本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真V-6 デジタルプリント・アドバンス	科目コード： 66045
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	<p>「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅳ-1」の受講後が望ましい。 ※「写真Ⅴ-6～14」より4科目選択必修（2015年度以前の入学生は「写真Ⅴ-4～14」より4科目選択必修）。</p>	
開講日程・開講地・定員	<p>写真Ⅴ-6(デジタルプリント・アドバンス)a 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：25</p> <p>写真Ⅴ-6(デジタルプリント・アドバンス)b 開催日程：2019年9月7日（土）～ 2019年9月8日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：25</p>	
担当者	諏訪光二（東京）、三島淳（京都）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

より高品質なデジタルプリントのためのデータ作成とA3ノビサイズのインクジェットプリントのための画像調整とプリント作業を行います。イメージを具現化するデジタル操作能力を習得します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 授業内容を理解した上で行った作品制作の成果

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。6～7時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。7～8時間程度の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真・技法と表現』デジタル写真の基礎知識（pp.32～41）、補助教材「デジタル写真」（airUシラバス「写真演習Ⅰ-1」に掲載）
------	--

参考文献・URL	アドビシステムズ http://www.adobe.com/jp/ Photoshop https://www.adobe.com/jp/products/photoshop.html 『新編 写真・技法と研究』
----------	--

課題

デジタルプリントの奥義に近づくための講座です。最終制作物のサイズは「A3ノビ」となり、他のデジタル系スクリーニングと比べて、作品の大きさが一回り大きくなります。それだけに、撮影や画像調整に要求されるクオリティも高いものとなります。そのためのデータ作りやプリンターの設定方法などを学びます。

授業内で数点のA3ノビプリントを仕上げます。

授業計画

●1日目

1～2講時 デジタルデータについて講義、ファイル形式、画像サイズ、ヒストグラムの活用、他

3講時 教室周辺にて各自のデジタル一眼カメラでの撮影

4講時 撮影データをパソコンへ取り込み、確認

5講時 RAW画像の現像

●2日目

1～4講時 A4、A3ノビプリント制作、適宜データの保存

5講時 合評

※天候や授業の進行状況により変更する場合があります。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. デジタル一眼カメラ式（メモリーカード、バッテリー、充電器等）

交換レンズは各自の撮影テーマで撮影に必要なと思われるものを持参してください。

RAW形式で撮影しますので各自の撮影枚数にもよりますがメモリーカードは容量の大きなものが必要です。

3. ノートパソコン

※RAWデータを快適に扱えるパソコンである必要があります。小型・軽量パソコンなど、非力なパソコンでは授業に支障が出る可能性があります。

※4. にリストしている必要ソフトウェアがインストールされている必要があります。前日までにインストールを完了してください。

※パソコンの有料貸出については『学習ガイド2019』p.59を参照してください。

4. 必要なソフトウェア

・ Adobe Photoshop CC、Adobe Bridge CC、Adobe Lightroom Classic CC

※いずれもAdobe社のフォトグラフィプランに含まれています。

※受講前に自宅にてアップデートを行い最新版をにしておいてください。

※体験版でもかまいませんが、受講時に使用期限切れにならないように注意してください。

※OSのバージョンが古いと起動できない場合があります。前日までにソフトを起動して動作することを

確認してください。

- ・ウイルス対策ソフト

※体験版でもかまいませんが、前日までにインストールを完了しておいてください。

※フリーウェア（無料ソフト）のウイルス対策ソフトはソフトにより安全レベルに差があるため推奨されません。

- ・使用するカメラのメーカー標準のRAW現像ソフト。
- ・その他、普段使用しているRAW現像ソフトがあればその使用も可。

■OSのバージョンと推奨環境

○Windows

- ・Windows8 以降（Windows7でも可ですが、Microsoft .NET Framework 4.5 がインストールされていること）。
- ・Windows Vista以前のOSはメーカーサポートも終了しているため不可。
- ・最新のAdobe社のソフトウェアを使用するにはWindows 10（バージョン 1709 以降）が必要です。

○macOS

- ・OS X 10.9 (Mavericks) 以降。それ以前のOSはメーカーサポートも終了しているので不可。
- ・最新のAdobe社のソフトウェアを使用するにはmacOS バージョン10.12 (Sierra) 以降が必要です。

○いずれのOS、バージョンも、前日までにアップデートを確認し、最新の状態にしておいてください。

○普段使用しているRAW現像ソフトを使用する場合は、そのソフトウェアが必要としている条件を満たすOS、環境である必要があります。

○その他

- ・搭載メモリー（HDDやSSDといった記憶装置ではありません）
8GB以上（16GB以上を推奨）

- ・推奨CPU インテル Core iシリーズ以上

- ・HDDやSSD等の記憶装置

パソコンに内蔵しているHDDやSSDには必要なソフトウェアをインストールした後、最低でも数十GB程度の空き領域を残した状態にしておいてください。作業領域として使用しますので、空き領域が少ないと授業に支障をきたします。

また、それとは別にデータを保存する空き領域を確保してください。これは外付けのSSD、HDD、USBメモリーでも可ですが、USBメモリーなどは速度の遅いものもあるため注意が必要。各個人の撮影量により異なりますが、カメラで使用するメモリーカードの容量の数倍程度の容量は必要です。

5. 記録メディア

4～8GB程度以上の容量のUSBフラッシュメモリ1個。もしくは外付ハードディスク1個。

各自の制作状況により必要な容量が異なりますが、撮影画像や画像調整作業で制作した画像データをプリントしたり、保存し持ち帰るために使用します。大学で用意するMacに接続するため、Macで読み書きできるフォーマットのものがが必要です（exFATを推奨）。

6. 保存用ファイル A4及びA3ノビサイズが入るもの（プリント作品を持ち帰るため）

7. 学内LAN利用アカウント

授業では使用しない場合もありますが、パソコンのネット接続が必要になった場合に必要となります。（『学習ガイド2019』pp.91～93参照）

※本科目では、プリントアウトの際、大学のパソコンも利用していただきます。

●教材

- ・補助教材「デジタル写真1～3」は、airUシラバスの「写真演習 I-1」に掲載しています。テキストとともに、在学中必要に応じて参照してください。
- ・資料編1（カメラ使用説明、カメラ用語解説）と資料編2（デジタル写真の基礎知識）についても同様です。

●諸経費

各自の出力枚数が違うため各自のプリント出力費が異なります。（以下は1枚当たりの費用です）

後日、使用分の教材費を指定口座から引き落とします。

●光沢紙

A4：190円

A3ノビ：370円

●アートペーパー

A4：360円

A3ノビ：720円

※金額は変更になる場合があります。

●その他

デジタルカメラの記録形式等に注意して撮影後、画像処理ソフトを使用してのレタッチ作業や、プリント用紙の違いによる発色傾向等も学習し、インクジェットプリンターを用いてカラーでA3ノビプリントを制作します。

各自撮影に必要なものがあれば「持参物」の一覧になくても用意してください。

事前に撮影された写真をプリントしたい場合はデータで持参してください。

補助教材『デジタル写真』も事前に参照しておいてください。

注意事項

■選択必修科目です。卒業制作の作品内容も考慮して科目を選択してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

■補助教材『デジタル写真』は、airUシラバス「写真 I-2」の「科目の概要」最下部「教材を確認」から閲覧できます。

■授業中、RAWデータの取り込みやRAW形式から他の画像形式への変換（RAW現像）や画像調整などを行いません。技術的に不安のある方は、先に「写真IV-1（デジタルフォト）」を受講されることをお勧めします。

S	写真V-7 ライティング・アドバンス	科目コード： 66046
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真Ⅱ-3」の受講後が望ましい。 ※「写真V-6～14」から4科目選択必修（2015年度以前の入学生は「写真V-4～14」より4科目選択必修）。	
開講日程・開講地・定員	写真V-7(ライティング・アドバンス)a 開催日程：2019年9月7日（土）～ 2019年9月8日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：15 写真V-7(ライティング・アドバンス)b 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：15	
担当者	小原直（京都）、野口好史（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

高度な静物撮影技術を修得します。デジタルカメラによる静物を中心としたスタジオ撮影を、基本撮影から応用撮影（自由モチーフ）の完成まで行います。既に習得したカメラテクニック、及びスタジオライティングテクニックを駆使、発展させて最適なセッティングを行いイメージの具現化を目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 作品構成力

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。6～7時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。6～7時間程度の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』 『写真・技法と表現』スタジオライティング（pp.58～79）
------	--

課題

ライティング基礎で学んだ内容を発展させ、より実践的、専門的なスタジオライティングを身につけます。受講者が持参したモチーフを撮影することで、作品づくりを意識したライティングと撮影姿勢も習得します。

授業計画

●1日目

1～2講時 モチーフのとらえ方、ライトの性質、その効果を学ぶ

3講時 素材別によるライティング実習

4～5講時 第1テーマの撮影デモンストレーションと第2テーマ撮影コンテの検討

●2日目

1～2講時 テスト撮影で、露出、被写界深度、アングル、背景などの基本を再確認

3～4講時 確認後、本番撮影、確認

5講時 撮影結果の確認、合評、質疑応答

※授業の進行状況により変更することがあります。

※京都は高原キャンパスで開催します。高原キャンパスのスタジオは土足厳禁ですので、備え付けのスリッパに履き替えることとなります。

気になる方はご自身でスリッパまたは上履きをご持参ください。外苑キャンパスでは土足のまま行います。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項を確認してください）

2. 被写体（モチーフ）など ※1

3. 露出計

お持ちの方は持参してください（『コースガイド2019』p.4参照）

撮影の際、光の強さを計り、シャッタースピードと絞りを設定するために使用します。

4. テザー撮影が可能なデジタルカメラ、撮影機材一式

テザー撮影が可能なデジタル一眼カメラ（テザー撮影が可能か否かはメーカーにお問い合わせください）、フード、レリーズ（リモコン可）、レンズ（広角のみは不可）など各自が必要と思われるもの ※2

5. メモリーカード2枚以上。

各自のカメラにあったカードで、終日の撮影に対応できるものと、予備として1枚以上を持参してください。

6 カメラ用バッテリー、充電器一式

7. カメラの取扱説明書（カメラ操作に不安のある方は持参してください）

8. ノートパソコン

テザー撮影のため各自のカメラに合ったメーカーのソフトがインストールされているもの、テザー撮影が可能なスマートフォンやタブレットでも構いません（事前にテストをしてきてください）。

9. テザー撮影のため、カメラとパソコンを接続させるコード

10. スリッパまたは上履き（京都）

※必要な方のみ

※1 被写体（モチーフ）について

第1テーマとして、大学で用意した被写体の静物撮影を行います。その後に第2テーマとして、各自のセレクションしたモチーフによる撮影を行います。皆さんの身近にある素材・被写体をご持参ください。自分の好きなもの、撮影したいものを基準に考え、あまり嵩張らないものをお持ちください。モチーフが思い浮かばない時は、出来上がった写真の使い方を考えてみてください。インテリアとしてとか年賀状として使うとか、具体的に想像してみてください。背景の素材として大学が用意するものは、白・黒・グレー色のバック紙のみです。その他に必要ながあれば、背景となるもの（大きい布や紙）を持参してください。

参考までにモチーフのサンプルをairUシラバスに掲載していますので、ご参照ください。

※2 授業内で三脚を使用する場合がありますが、大学で用意します。

注意事項

■選択必修科目です。卒業制作の作品内容も考慮して科目を選択してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

■授業中、スタジオライティング機材を扱います。技術的な不安のある方は、先に「写真Ⅱ-3（ライティング基礎）」を受講されることをお勧めします。

S	写真V-8 白黒プリント	科目コード： 66047
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真V-6～14」から4科目選択必修（2015年度以前の入学生は「写真V-4～14」より4科目選択必修）。	
開講日程・ 開講地・定員	写真V-8(白黒プリント) 開催日程：2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：20	
担当者	小原直、中山博喜*	

科目概要と到達目標

歴史的、文化的に長く写真の代表的プリント表現であった、モノクロ写真の理解と実践のため銀塩白黒プリントによる作品制作を学習します。
より緻密なプリントを仕上げるための暗室技術も学習します。

評価基準と成績評価方法

1. 受講態度
2. 授業の理解度
3. 事前課題の取り組み
4. 作品のクオリティ

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。
また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。5～6時間程度の予習が必要です。
受講後にノートやテキストをふり返り、授業内容を整理してしっかり復習してください。6～7時間程度の復習をしましょう。
課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』 『写真・技法と表現』の「プリント」の項 (pp.102～121)
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

課題

デジタル写真がデフォルトとなった現代でも多くの写真家がフィルムと印画紙による作品制作を続けています。フィルム現像と白黒印画紙プリントを暗室で経験することにより、その秘密の一端を垣間見、作品づくりに必要な基礎的技術を身につけます。

授業計画

1日目

1講時 現像・プリント解説

2～3講時 フィルム現像

4～5講時 コンタクトプリント作成、セレクション

2日目

1～4講時 プリント作業

5講時 乾燥、スポッティングなどの仕上げ作業、合評、質疑応答

※授業の進行状況により変更することがあります。

※暗室(高原キャンパス)は土足禁止ですので、備え付けのスリッパに履き替えることになります。

気になる方はご自身でスリッパまたは上履きをご持参ください。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. 印画紙

イルフォード マルチグレードIV RCデラックス（1M、25M、44Mいずれでも可）8×10六つ切り（25枚入）1冊

3. エプロン（薬剤汚れ防止のため。胸当て付きのものがよい。）

4. ハサミ

5. タオル2～3枚

6. 筆記用具（B以上の濃さの鉛筆）

7. メジャー（お持ちの方は持参してください）

8. 電卓（スマートフォンなどの電卓でも可）

9. スリッパまたは上履き(必要な方のみ)

●諸経費

後日、以下の教材費を指定口座から引き落とします。

●薬品材料費6,000円程度

※金額は変更になる場合があります。

注意事項

■選択必修科目です。卒業制作の作品内容も考慮して科目を選択してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真V-12 写真批評	科目コード： 66051
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	<p>「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真V-6～14」より4科目選択必修（2015年度以前の入学生は「写真V-4～14」より4科目選択必修）。</p>	
開講日程・ 開講地・定員	<p>写真V-12(写真批評)a 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30</p> <p>写真V-12(写真批評)b 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p>	
担当者	竹内万里子、姫野希美（京都）、大西洋、タカザワケンジ（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

複数の教員から多角的な講評を受け、自己の作品を理解し、客観的な視点を養い、制作の方向性を学びます。
 写真を視る専門家である教員から同じ作品に対する講評指導を受けて、その要旨を総括し、最終的に自己作品の批評を目指します。プレゼンテーションを繰り返すことにより制作コンセプトを明確にしていきます。

評価基準と成績評価方法

1. 作品講評を理解しているか
2. 異なる講評を統合し考察できているか
3. 自己の作品を客観的に解釈できているか
4. 事前課題の取り組み
5. プレゼンテーション力

課題作品と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。
 また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。2～3時間程度の予習が必要です。
 受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。4～5時間程度の復習をしましょう。
 課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	赤々舎 http://www.akaaka.com/ 『写真芸術論』（※『学習ガイド2019』pp.75～76「1-2.教材の販売」参照） Case Publishing http://case-publishing.jp/jp

課題

写真界の第一線で活躍する批評家、評論家、研究者、出版者に作品を批評してもらいます。観ることの専門家によるアドバイスは、通常の授業で受ける批評とはまたひと味違う、独特の視点と切り口をもって迫ります。そのことにより作品の方向性や写真についての考え方に大きな刺激と気付きを得ます。また著名な講師との貴重な出会いにより、その後の作品制作や写真界での活動に活かされてゆきます。

授業計画

【京都】

- 1日目 1～5講時 作品講評（竹内万里子）
- 2日目 1～5講時 作品講評（姫野希美）

【東京】

- 1日目 1～5講時 作品講評（大西洋）
- 2日目 1～5講時 作品講評（タカザワケンジ）

※2日間教員がかわります。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（「事前課題」の項目参照。継続して制作している作品に限ります。）
2. 筆記用具

注意事項

■選択必修科目です。卒業制作の作品内容も考慮して科目を選択してください。

■持参する作品は継続して制作している作品に限ります。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでください。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	写真V-14 デジタル・プレゼンテーション	科目コード： 66053
配当年次	3年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	<p>「写真演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※受講までに事前課題を完了させ、スクーリング初日に持参すること。 ※「写真V-6～14」より4科目選択必修（2015年度以前の入学生は「写真V-4～14」より4科目選択必修）。</p>	
開講日程・ 開講地・定員	<p>写真V-14(デジタル・プレゼンテーション)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：30</p> <p>写真V-14(デジタル・プレゼンテーション)b 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：30</p>	
担当者	木村利行（京都）、古屋和臣（東京）、勝又公仁彦*	

科目概要と到達目標

近年、デジタルカメラに新たに備えられた動画撮影機能を活用し、動画作品の制作や動画撮影の仕事もこなす写真家が増えています。当科目ではそういった潮流をふまえ、写真表現と動画表現の中間的なアプローチによる写真映像表現を学びます。また、展覧会場での高精細ディスプレイでの展示上映や、YouTube・Vimeoといった動画サイトへのアップロードなど、プレゼンテーションの方法も視野に入れて取り組みます。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み（映像的な構成を理解した上で、効果的な撮影ができているかどうか）
2. 映像の編集が適切になされているかどうか
3. 成果物（映像作品）のクオリティとプレゼンテーション力
4. 授業への参加姿勢

課題と上記による総合評価

予習・復習

受講前にテキストや参考文献などを読んで、授業内容について理解を深めるようにしてください。また、専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。7～8時間程度の予習が必要です。

受講後にノートやテキストをふり返し、授業内容を整理してしっかり復習してください。8～9時間程度の復習をしましょう。

課題に取り組む際には学んだことを十分に活かし、課題の提出後は次年度につながる学習の準備をしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『よくわかる映像コンテンツ制作入門』宮田一乗 監修（オーム社） 『新編 写真・技法と研究』

課題

任意のテーマに基づいて撮影した写真と動画を素材とし、映像編集ソフトを使用して編集を行い、3分間の映像作品を制作します。

事前課題で各自が撮影した写真と動画を素材として、Premiere、After Effectsといった動画編集ソフトを活用して最終的に3分の映像作品を完成させます。

ソフトウェアを使用した映像編集技術を体得するだけでなく、制作過程で「写真と動画の撮影方法の差異」や「時系列を意識した写真・動画の構成方法」といった映像的リテラシーも身に付けていきます。

授業計画

●1日目

1講時 課題についての講義及び作例鑑賞

2講時 写真撮影と動画撮影の差異についての講義

3講時 午前中の講義をふまえ、動画テスト撮影

4～5講時 映像編集ソフトAdobe Premiere Pro CC、Adobe After Effects CCを使用した映像編集講座

●2日目

1～2講時 最終的な映像編集と書き出し作業時間

3～5講時 各自作品のプレゼンテーションとディスカッション

※授業の進行状況や受講人数により変更する場合があります。

受講にあたって

●持参物

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. ノートパソコン

※Adobe Creative Cloudにて、After Effects、Premiere Pro、Photoshopがインストールされていること。

3. デジタルカメラ一式（各自が必要と思われるもの）

4. USB

5. 三脚

注意事項

■選択必修科目です。卒業制作の作品内容も考慮して科目を選択してください。

■本科目には「事前課題」が設定されています。詳細はairUの該当ページを必ず確認し、取り組んでく

ださい。初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	<h1 style="margin: 0;">卒業制作（写真）</h1>	科目コード： 66091
配当年次	4年次～	
単位数	6	
履修の前提条件	「卒制1・2」は前年度末までに卒業制作着手要件を満たし、卒業制作着手が許可されていること。「卒制3～6」はスクーリング申し込みまでに「卒業制作（3～6）」の履修の前提条件を満たしていること（『コースガイド2019』 pp.8～9参照）。	
開講日程・ 開講地・定員	<p>卒業制作1a 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし</p> <p>卒業制作1b 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし</p> <p>卒業制作2a 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし</p> <p>卒業制作2b 開催日程：2019年8月3日（土）～ 2019年8月4日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし</p> <p>卒業制作3a 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし</p> <p>卒業制作3b 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし</p> <p>卒業制作4a 開催日程：2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし</p> <p>卒業制作4b 開催日程：2019年11月23日（土）～ 2019年11月24日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし</p> <p>卒業制作5a 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし</p> <p>卒業制作5b 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし</p> <p>卒業制作6a</p>	

開講日程・ 開講地・定員	開催日程：2020年1月18日（土）～ 2020年1月19日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし 卒業制作6b 開催日程：2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし
担当者	勝又公仁彦*、中山博喜、稲元史郎、鈴木崇、タカザワケンジ、田中仁、竹内万里子、中村史子、林田新、日高優、三島淳、山本渉（以上の教員が適宜担当予定）

科目概要と到達目標

写真コースにおける学習の集大成となる作品を制作し、完成させることを目的とします。これまでの課題、作品は主に教員や友人たちに向けて提示する学内的なものでしたが、卒業制作は学外、一般社会に向けて発信するあなたの代表作です。作品の完成度が求められます。

評価基準と成績評価方法

1. テーマ設定
2. 技法の選択
3. 作品のクオリティ（コンセプトの内容を含む）
4. 作品のプランニングスキル（計画的に制作を進められたかどうか）
5. 作品のプレゼンテーション

以上の項目とテキスト科目「写真演習IV」による総合評価

予習・復習

受講後にノートやテキストをふり返し、内容を整理してしっかり復習してください。各実習4～5時間程度の予習が必要です。

取り組む際には学んだことを十分に活かし、次のステップへ向けた準備をしてください。各実習6～7時間程度の復習をしましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	Compilation of photo series of Kunihiro Katsumata until 201X』勝又公仁彦 (Media Passage) 『Right Angle-white next to white-』勝又公仁彦 (Media Passage) 『写真芸術論』（※『学習ガイド2019』pp. 75～76）「1-2.教材の販売」参照

課題

卒業制作は本学での学びの集大成であり、学生が本格的に写真作家としてのデビューを飾る重要な作品作りとなります。

ここでは、視覚的に力のある作品制作をすることを基本としつつそれ以外に大きく分けて、

- ① 作品の言語化
- ② 言語とヴィジュアルの相関関係の構築
- ③ 関係の検証と修正

という三つの要素を満たしていくことが求められます。

これらの要素は、写真制作に限らず、「表現する」という行為において根本的に重要なプロセスであり、本学における学習の集大成として、自身の「表現」に対して厳格に向き合っていくこととなります。教員との対話とプレゼンテーションを通して、そのような普遍的な力に近づきます。

作品のサイズや制作の手法にもよりますが、A3～A4の場合は30点以上のプリントを作品として完成させます。

審査に合格した作品は卒業制作展に展示します。

【諸注意】

デジタルカメラでの作品にはRAW画像をなるべく大きなサイズで現像して、色調やコントラストなどを適切に調整したデータを作って使うようにして下さい。それ以外のデータでA4以上にプリントした場合、画質が卒制の求める質に足りない場合があります。RAW以外でしか撮影しないという場合はその理由を作品と結びつけて説明して下さい。

また、プリントアウトにはお使いのプリンターに合致した高品質の写真専用紙を使うか、デジタルCプリントでプリントするようにして下さい。プロラボに外注しても構いません。それ以外の用紙や方式を使う場合にはその理由を作品と結びつけて説明して下さい。

フィルムでの撮影の方は、銀塩の印画紙にプリントするようにして下さい。それ以外の印画紙や方式を使う場合にはその理由を作品と結びつけて説明して下さい。

授業計画

- 卒制1：テーマ研究、事例研究、ディスカッション
- 卒制2：テーマ審査／計画発表、制作、ディスカッション
- 卒制3：制作、ディスカッション
- 卒制4：中間審査、制作、ディスカッション
- 卒制5：制作、ディスカッション
- 卒制6：最終審査、制作、ディスカッション

※詳細は授業の中で説明します。

【補足】

- ・初回スクーリングの際、各卒制での詳細なスケジュールをお伝えします。
- ・各卒制には事前課題があります。必ずairUシラバスの「事前課題」の項を確認し、スクーリングの前に取り組んでください。
- ・持参物・教材・諸経費についてはairUシラバスに掲載しています。受講の前に必要な持参物等の情報を必ず確認してください。
- ・卒制1には「写真演習Ⅱ-2」第2課題で制作した作品を持参していただきます。
- ・「写真演習Ⅲ-1」第2課題（ポートフォリオ2）に合格している方は持参して下さい。

受講にあたって

●持参物

■卒制1（テーマ研究、事例研究）

1. 事前課題（事前課題の項目参照）
2. 「写真演習Ⅱ-2」第2課題（テーマ制作）、「写真演習Ⅲ-1」（ポートフォリオ）で制作した作品を持参して下さい（制作途中でも可）。

■卒制2（テーマ審査／計画発表）

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

2. 「写真演習Ⅱ-2」第2課題（テーマ制作）、「写真演習Ⅲ-1」（ポートフォリオ）で制作した作品を持参して下さい。

参考資料として教員が提示を求める場合があります。

※薬品・暗室用品・プリンターなどは大学が用意しますが、それ以外のもの（印画紙、写真用紙など）は各自が必要なものを持参してください。

なお、カメラ、パソコンの貸出はありません。

大学にてデジタルによる制作をする場合は、必ずノートパソコン一式、画像処理ソフトなども持参してください。

■卒制3～卒制6共通

1. 事前課題（事前課題の項目参照）

※薬品・暗室用品・プリンターなどは大学が用意しますが、それ以外のもの（印画紙、写真用紙など）は各自が必要なものを持参してください。

なお、カメラ、パソコンの貸出はありません。

大学にてデジタルによる制作をする場合は、必ずノートパソコン一式、画像処理ソフトなども持参してください。

●諸経費

卒制1～卒制6共通

薬品材料費や出力費などの教材費は、実費負担となります。

大学のインクジェットプリンターを使って、持参した写真用紙を出力した場合の出力費は授業内でお知らせします。

その他各卒制で使用する薬品および廃液処理代は「卒制1」の際にお知らせします。

注意事項

■本科目には「事前課題」が設定されています。必ず確認し、取り組んでください。

初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

・スクーリングの申込みは、前半（卒制1・2）と後半（卒制3～6）の2回に分けて行います。

前半の申込時期は4・5・6月開講スクーリング申込期間（春期）、後半は10・11・12月開講スクーリング申込期間（秋期）です。

前半と後半とで会場を変更することは可能ですが、卒制1・2は同会場、卒制3～6は同会場となります。

・本科目は追加募集をします。

卒制3～6の先行申込期間内に「卒業制作（3～6）」の履修の前提条件（卒業制作着手本要件）を満たせなかった場合、追加募集期間にお申し込みください。

・スクーリング科目「卒業制作」はテキスト科目「写真演習Ⅳ」と合わせて10単位一括認定です。

各授業で個別に成績は出さず、最終プレゼンテーションの評価をもって成績とします。

TW	写真演習 I - 1	科目コード： 66601
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】 04/11～04/20、【5/20締切分】 05/11～05/20、 【7/20締切分】 07/11～07/20、【8/20締切分】 08/11～08/20、 【10/21締切分】 10/11～10/21、【11/20締切分】 11/11～11/20、 【1/20締切分】 01/11～01/20、【2/20締切分】 02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	勝又公仁彦*、第1課題：白井晴幸、石倉麻夕、西川善康、藪本絹美、第2課題：木村真由美、成田舞、堀井ヒロツグ	

科目概要と到達目標

最初に取り組んでいただきたい本科目は、写真制作の原点である自己とその周辺を見つめて、認識していただくためのものです。イメージを写真化する発端である自己の視点と感覚を明確にして、写真による自己表現を目指しましょう。

評価基準と成績評価方法

1. 課題内容を理解しているか
2. 課題内容に沿った制作（撮影）がなされているか
3. 制作コメントは明解に書かれているか
4. 作品（写真）と制作コメントの主旨は一致しているか
5. 作品に自己が表れているか

上記の項目の総合評価。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』『写真・技法と表現』
参考文献・URL	セルフポートレート：『自画像』 寺田寅彦 『SELF AND OTHERS』 牛腸茂雄 『Self Portrait』 リー・フリードランダー 『私をつくるー近代小説の試み』 安藤宏 『影の現象学』 河合隼雄 『物語の役割』 小川洋子 『考える身体』 三浦雅士

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポート1冊 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付

課題の内容

第1課題：【写真日記】

写真による日記を制作します。

シャッターを切るという行為を日常的に行ってみましょう。日頃の生活の中で起こる出来事やあなたが感じたことを、写真というメディアを使って表現してみてください。

うまく撮ろう、きれいに撮ろうという気持ちはひとまず横に置いて、気の向くままにシャッターを押しましょう。生活をする中でいいなと思った時、興味のある事や物にカメラを向けて写真を撮り、仕上がった写真を見て自分はどこに魅かれて撮ったのかを考えてみましょう。撮影時は何も考えていなくても構いません。

果たして、あなたの感動や伝えたいことは写真に表れているでしょうか？

2週間分（14日分）をまとめてください。また、制作コメントも作成してください。

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポートを1冊にまとめる 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付

課題の内容

第2課題：【セルフポートレイト】

セルフポートレイトを2作品制作します。

自己を再認識、細分化する事で他者とのつながり、世間とのつながりを確認しようという試みです。自己を認識する事で自分にしか表現出来ないものが見えてくるはずです。また、自己を認識する事は、この先さまざまな質問を受けた時にする受け答えの礎となるはずです。セルフポートレイトは画家や彫刻家など、さまざまな芸術家が試みてきた表現です。それらを参考にすることもよいでしょう。

自分は何を撮りたいのか？何を表現したいのか？

自分で自分を表現しようとした時、何らかの工夫が必要となるはずです。じっくりと“自分”について考え、これが私だと言える写真あるいは、この課題の制作を通じて発見した自分の写真を制作してください。

TW	写真演習 I - 2	科目コード： 66602
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	中山博喜*、第1課題：藪本絹美、西川善康、大河原光、第2課題：徳永隆之、大河原光	

科目概要と到達目標

レンズ光学とカメラ機能を確認した上で、カメラのメカニズムによる映像表現を理解します。メカニズムによる映像効果を制作（写真作品）のなかに発揮できるように学習しましょう。

評価基準と成績評価方法

1. カメラ、レンズの機能を理解しているか
2. 課題の規定を守って撮影しているか
3. 機能による効果が写真に反映されているか

上記の項目の総合評価。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』、『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

作品第1課題

課題コード： 11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポート1冊 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書

再提出物 (一括送付)	3. 返送用宛名シール (返送先明記、発送時と同額の切手貼付) レポート提出専用封筒に入れて一括送付
----------------	---

課題の内容

第1課題：【絞りとシャッター】

絞りとシャッタースピードを変えて撮影し、その機能と絞りとシャッタースピードが変化することによる表現の違いを理解します。効果がわかりやすい撮影対象 (被写体) を選択するのも重要です。

※ 撮影技術に不安のある方はスクーリング科目「写真Ⅱ-1 (撮影基礎1)」を先に受講されることをおすすめします。

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真の画像データ（10枚）を書き込んだCD-R1枚 2. 制作コメントを記入したレポート 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付）
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付

課題の内容

第2課題：【露出補正】

カメラの測光方式と特徴を理解します。カメラはレンズから入る光の量に合わせて、絞り値とシャッタースピードを決定しています。同じ明るさでも、被写体の反射率が異なるとレンズに入る光の量も変化します。その為、正しい露出を得られないことがあります。この課題では、適正露出を得ることが難しい被写体を選択し、その調整(露出補正)を実践します。さまざまな条件、被写体で撮影してみましよう。

※撮影技術に不安がある方はスクーリング科目「写真Ⅱ-1(撮影基礎1)」を先に受講されることをおすすめします。

TW	写真演習Ⅱ-1	科目コード： 66603
配当年次	2年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「写真演習Ⅰ-1」および「写真演習Ⅰ-2」を合格済みであること	
履修方法	提出順序の制作なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	勝又公仁彦*(第1課題)、中山博喜*(第2課題)、第1課題：徳永好恵、第2課題：河田憲政、黒崎創	

科目概要と到達目標

写真による編集、構成を理解して2つの制作手法（フォト・コラージュ／テーマ制作1）を実践します。同時に自己の写真を客観視する能力も身につけていきます。テーマに沿ったイメージを構築できる企画構成力を習得しましょう。

評価基準と成績評価方法

1. テーマの構想はできているか
2. 発想力があるか
3. 大切なモノの撮影が適切になされているか ※フォト・コラージュ
テーマにあった撮影がなされているか ※テーマ制作1
4. 編集構成はスムーズであるか
5. 制作コメントが作品に反映しているか
6. 全体の完成度

上記の項目の総合評価。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』、『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『冒険王・横尾忠則』（展覧会図録）※フォト・コラージュ 『はるかな旅・岡上淑子作品集』河出書房新社※フォト・コラージュ 『新編 写真・技法と研究』 airUシラバス「写真演習Ⅱ-1」に掲載の映像教材※フォト・コラージュ

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォト・コラージュ作品1点 2. 制作コメント(800字程度) 3. 添削指導評価書(『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用) 4. 返送用宛名シール(返送先明記、発送時と同額の切手貼付) 作品送付用大型封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した作品 2. 前回(D評価)の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール(返送先明記、発送時と同額の切手貼付) 作品送付用大型封筒に入れて一括送付

課題の内容

第1課題：【フォト・コラージュ】

複数の写真やイラスト、文字、雑誌の切り抜きなどを自由に組み合わせて制作します。

B4サイズ(257×364mm)のケントボード(白色)を台紙とし、中央に240×350mmの枠を引き、その枠内を画面として平面構成をしてください。画面は、縦長・横長どちらでも可。ただし、素材の中に必ず自分の大切なモノ(カメラを除く)を撮影した写真を採り入れてください。

※コラージュ作品は、組写真作品やシークエンス写真(連続写真)作品とは違うことを念頭に入れて着手してください。

※「大切なモノ」を撮影した写真が画面にないものは評価対象となりません。

※スクーリング科目「写真Ⅲ-5(フォト・コラージュ)」を受講してから制作することが望ましい。

※本課題に取り組む前にairUシラバス「写真演習Ⅱ-1」に掲載の映像教材を視聴することをおすすめします。

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ制作作品1冊、制作コメント（800字程度） 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した作品、制作コメント（800字程度） 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付

課題の内容

「写真演習II-1」第2課題と「写真演習II-2」第2課題はどちらもテーマ制作となりますが、それぞれ違うテーマで制作してください。
同時提出は可能です。

第2課題：【テーマ制作1】

自由テーマの写真作品を制作してください。1回の撮影で終わるのではなく継続的に撮影制作し、掲げているテーマがその内容に則したものになるように、編集構成を続けて、まとめあげてください。テーマを設定する際には長期的な撮影が可能なものを対象としてください。

※本課題はスクーリング科目「卒業制作1」の持参物になります。

TW	写真演習Ⅱ-2	科目コード： 66604
配当年次	2年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「写真演習Ⅰ-1」および「写真演習Ⅰ-2」を合格済みであること	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	勝又公仁彦*、第1課題：坪口裕亮、成田舞、堀井ヒロツグ、第2課題：坪口裕亮、黒崎創	

科目概要と到達目標

本科目は写真制作における発想力と構想力を高め、作品を具現化する能力を身につけていくものです。思考と撮影を繰り返すことから継続力も体得していきます。

評価基準と成績評価方法

1. 課題内容を理解しているか
2. 独創性があるか
3. 全体のまとめり
4. 制作コメントが作品に反映しているか
5. 作品のクオリティ

上記の項目の総合評価。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』、『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポート1冊、制作コメント（800字程度） 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した作品、制作コメント（800字程度）

(一括送付)

2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書
3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付）
作品送付用大型封筒に入れて一括送付

課題の内容

第1課題：【アザースポートレイト】

写真の発明により、人々は安価に自分や他者の肖像を得ることができるようになりました。絵画での肖像画の伝統を引き継ぎながら、写真による迫真の描写力は画家たちの仕事をあっという間に奪ってゆきました。人々の像を捉えるポートレイトは写真の最も主要なジャンルとなります。

現在、様々な肖像がスマホや携帯のカメラによっても撮影され、SNSなどを通じて流通し、世界に拡散されています。そのような時代において、写真を学び、専門とする私たちはどのようなポートレイトを撮るのでしょうか。対象、カメラ、レンズ、撮影方法やシチュエーション、ライティングなどをそれぞれの思想によって選択し作品として下さい。

他者のポートレイトを撮るためには、相手の同意を得ることが必須となります。撮りやすい関係の相手、許可を得られにくい相手など色々いることでしょう。撮影の許可を得るための交渉もまた写真を撮るための学習の一つと考え、コミュニケーション能力の向上にも繋げて下さい。作品のみならず制作コメントも重視しますので、制作意図を明確に書いてください。

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ制作作品1冊、制作コメント（800字程度） 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） レポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した作品、制作コメント（800字程度） 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付

課題の内容

「写真演習II-1」第2課題と「写真演習II-2」第2課題はどちらもテーマ制作となりますが、それぞれ違うテーマで制作してください。
同時提出は可能です。

第2課題：【テーマ制作2】

自由テーマの写真作品を制作してください。1回の撮影で終わるのではなく継続的に撮影制作し、掲げているテーマがその内容に則したものになるように、編集構成を続けて、まとめあげてください。テーマを設定する際には長期的な撮影が可能なものを対象としてください。

※本課題はスクーリング科目「卒業制作1」の持参物になります。

※テーマ制作1を合格している場合はその添削内容を踏まえて制作してください。

TW	写真演習Ⅲ－1	科目コード： 66605
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ－1」および「写真演習Ⅱ－2」を合格済みであること	
履修方法	第1課題合格後、第2課題提出	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	第1課題：鈴木崇、山本渉、森政俊、第2課題：中山博喜*、勝又公仁彦*、森政俊	

科目概要と到達目標

本科目では卒業制作への布石として、総合的な写真作品を制作します。テーマを設定してそれを実現させるための構想を練り、手法の選択、下調べ、撮影、プリント作成、編集構成など一貫した制作活動を通じて作品（ポートフォリオ）を完成させ、その作品をプレゼンテーションするためのポートフォリオ制作を行います。

評価基準と成績評価方法

1. テーマの設定
2. テーマへのアプローチ
3. 構成力
4. プリントのクオリティ
5. 制作の継続性
6. 制作コメントと作品の一体性

上記の項目の総合評価。 本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』、『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『新編 写真・技法と研究』 第4部 第3章

作品第1課題

課題コード： 11

初回提出物 (一括送付)	1. ポートフォリオ1冊（制作コメント付） 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイ
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	ド」よりダウンロードして使用) 3. 返送用宛名シール (返送先明記、発送時と同額の切手貼付) 作品提出専用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票 (返送先明記) を同封すること
再提出物 (一括送付)	1. 再制作した課題一式 2. 前回 (D評価) の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール (返送先明記、発送時と同額の切手貼付) 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票 (返送先明記) を同封すること。

課題の内容

【ポートフォリオ1】

自らが設定したテーマで制作した作品を、まとめて見せるためのポートフォリオを作成する。

写真作品をつくるということは、作者が自己の意思に沿ったテーマを見つけ、それに見合った被写体、撮影機材、撮影方法などを選択して何かを撮影するということです。また、その作品を発表するということは、作品のサイズや展示方法、出版物の形成等を決定し、それを公に見せるということです。

この課題はそのための第一歩です。長く探求できるテーマを設定して、今後の卒業制作にも繋げていけるような作品づくりを心がけましょう。

提出するポートフォリオは最終的な作品の代わりとして、作品のタイトル等も含め、そのままプレゼンテーションができるような完成度の高いものを目指して制作してください。

※ポートフォリオについてはテキスト『写真・技法と表現』p.175ポートフォリオの章参照。

※外部業者へのデータ入稿によって印刷・製本されたブックはプリントの質を判断できないため不可。

学習のポイント

制作した作品をポートフォリオという形式の中でどのように編集して見せればその真意が伝わるのか、という事を念頭においてまとめることを心がけてください。使用する紙の種類やタイトルも、提出するポートフォリオの評価に大きく影響します。紙の選択、作品タイトルページについても気を抜かず、制作を進めましょう。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none">1. 制作意図と第1課題からの改良点を記した制作コメント付きポートフォリオ1冊2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用）3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。
再提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none">1. 再制作した課題一式2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。

課題の内容

第2課題：【ポートフォリオ2】

第1課題で制作し合格した作品の制作を継続し、第1課題での評価に基づいて考察、修正を加えた上で更に完成度の高いポートフォリオ制作を行います。

※第1課題からのテーマ変更はできませんので留意してください。

※ポートフォリオについてはテキスト『写真・技法と表現』p.175ポートフォリオの章参照

※外部業者へのデータ入稿によって印刷・製本されたブックはプリントの質を判断できないため不可。

TW	写真演習Ⅲ－2	科目コード： 66606
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「写真演習Ⅱ－1」および「写真演習Ⅱ－2」を合格済みであること	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	勝又公仁彦*、坪口裕亮、森政俊、鈴木崇	

科目概要と到達目標

写真の歴史を代表する表現方法を理解し、実践することから自己の創造力を高める。多様な制作手法を習得することから卒業制作へのアプローチを意識していきます。

評価基準と成績評価方法

1. 課題内容の理解度
2. 制作手法の考察ができているか
3. 制作コメント
4. 作品の完成度

上記の項目の総合評価。 本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『写真の変容と拡張』、『写真・技法と表現』
参考文献・URL	『写真芸術論』（※『学習ガイド2019』p.75～76「1-2.教材の販売」参照）

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポート1冊 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。
再提出物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式

(一括送付)	2. 前回 (D評価) の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール (返送先明記、発送時と同額の切手貼付) 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票 (返送先明記) を同封すること。
--------	--

課題の内容

【タイポロジー】

写真表現におけるタイポロジーとは、ドイツ人写真家夫妻のベルント／ヒラ・ベッヒャーらによって編みだされた写真の表現方法、もしくは展示形式の方法論を意味します。

写真を1点1点の作品として見せるのではなく一貫した形式やルールを設定して、可能な限り主観性を排して撮影した複数枚のイメージを均等なグリッドに配置構成する方法によって、それぞれの被写体を持つ形態の類型による反復性と、個々の差異を俯瞰的に見せることを可能にした写真の表現方法です。

この課題ではそのタイポロジカルな方法論を利用した作品制作を行ってまいります。

※『写真藝術論』p.145「タイポロジーの射程—ベルント&ヒラ・ベッヒャーの地平—」を参照することをお勧めします。

作品第2課題

課題コード：21

<p>初回提出物 (一括送付)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品と制作コメントを記入したレポート1冊 2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 <p>※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。</p>
<p>再提出物 (一括送付)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再制作した課題一式 2. 前回（D評価）の添削指導評価書および添削指導評価書 3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 <p>※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。</p>

課題の内容

【コンストラクティッドフォト】

写真発明直後から、被写体や状況を創作して撮影する写真は存在していましたが、1980年代に登場したコンストラクティッドフォトは「創る写真」を認知、定着させました。

この課題は、すでにあるものをそのまま撮影するというものではありません。まず、コンストラクティッドフォトを考察し、テーマ設定をしっかりと行い、テーマに沿ったイメージを展開してください。状況や被写体を一から作り上げてもいいですし、既存のものに手をくわえても構いません。あなたが描くイメージを具現化してください。

また、テーマにあった撮影のセッティングを考えてください。光は？背景は？レンズは？絞りは？など、撮影に必要な条件を厳選してください。創ることだけでなく、撮影することだけでもありません。一体となった制作です。

※テキスト『写真の変容と拡張』の（コンストラクティッド・フォトグラフィ）に関する事項を参照

TX	写真演習Ⅳ 卒業制作	科目コード： 66607
配当年次	4年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	前年度までに「卒業制作着手要件」を満たし、卒業制作着手が許可されていること。	
履修方法	第1課題合格後、第2課題提出	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【7/20締切分】07/11～07/20 第2課題 【11/20締切分】11/11～11/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	勝又公仁彦*、山本渉、鈴木崇、中山博喜	

科目概要と到達目標

本学における学習の集大成となる作品を制作し、完成させることを目的とします。これまでの課題、作品は主に教員や友人達に向けて提示する学内的なものでしたが、卒業制作は学外、一般社会に向けて発信するあなたの代表作です。作品の完成度が求められます。

評価基準と成績評価方法

1. テーマ設定
2. 技法の選択
3. 作品のクオリティ（コンセプトの内容を含む）
4. 作品のプランニングスキル（計画的に制作を進められたかどうか）
5. 作品のプレゼンテーション

以上の項目とスクーリング科目（卒業制作）との総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『写真芸術論』（※『学習ガイド2019』pp. 75～76）「1-2.教材の販売」参照）

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参考作品の資料 2. コメント（2,000文字程度） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、切手貼付）
-----------------	---

初回提出物 (一括送付)	上記すべてをレポート提出専用封筒に入れて一括送付
再提出物 (一括送付)	再提出の機会なし

課題の内容

第1課題：【事例研究】

「卒業制作」では3年次のポートフォリオをベースとしながら、自らテーマを設定し、リサーチや分析を基に企画を固め、最終的な作品に繋がる試行錯誤を繰り返します。ここでは、現時点での卒業制作における研究テーマにつながるとされる、過去の事例について調査と分析を進め、文章化することで自らの興味対象を客体化します。

第2課題

課題コード：21

初回提出物	1. 作品
-------	-------

(一括送付)	2. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末の書式をコピーするか「airU学習ガイド」よりダウンロードして使用） 3. 返送用宛名シール（返送先明記、切手貼付） 作品送付用大型封筒に入れて一括送付 ※1kgを超える場合は、返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）を同封すること。
再提出物 (一括送付)	再提出の機会なし

課題の内容

第2課題：【プレゼンテーション・ポートフォリオ制作】

課題内容：卒業制作の内容を、「ポートフォリオ」を意識した形式と内容にまとめる。

提出形態：自由